

## 学位論文審査の結果の要旨

### 宝音図

本研究は、中国内モンゴル赤峰市の半農半牧村と牧畜村で実施した農家経営調査（33戸：半農半牧村16戸、牧畜村17戸）から収集した農家レベルのデータを用いて、肉用牛繁殖経営の現状と課題を明らかにしたものである。主な分析結果は以下のとおりである。第1に、調査2村間には飼料基盤において顕著な差がみられるものの、飼養頭数、粗収入、経営費、純収入において2村間に統計的な有意差はない。第2に、純収入を規定する主な要因は、飼養頭数、耕地面積、トウモロコシ販売の有無、素牛出荷率、素牛出荷体重であり、飼料基盤の差に由来する繁殖管理・飼養方法の差が純収入の遠因になっていることが示唆された。第3に、経営の課題については、小規模層は出荷先の不安定性等の経営外部条件を問題と捉え、現状維持を志向する傾向にあり、他方、大規模層は労働力不足、優良品種の少なさ、牧草地不足等の経営内部資源の不足を問題であると捉え、それら自己資源の拡充・強化により規模拡大を志向する傾向にある。今後、飼養頭数規模にかかわらず、これまでの量的拡大から、質的改善をより重視する経営戦略が選択される可能性が高いことが示唆された。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。